

現地レポート

サウジアラビアにおける IS の脅威

5月下旬にサウジアラビア（以下サウジ）のシーア派モスクが2週間連続して自爆テロに遭ったが、8月初旬にも治安部隊のモスクが狙われ、“ナジュド州のIS”と名乗るグループから犯行声明があった。ナジュド州はサウジの首都リヤドを有する州で、サウジの中心部にもISが活動を展開していることを誇示することを目的とした名称であろう。現在サウジにはISが占拠する集落などは見当たらないが、一説には2500人以上のサウジ人がシリアに渡りISの教育を受けて帰国していると言われ、彼らが潜伏して活動していると思われる。それに伴い在住する我々がテロなどに遭遇する可能性が以前に増して高まっている。

当地では湾岸戦争以降、米軍の駐留を不服とするアルカイダによるテロが頻発、2003年には外国人居住区でも自爆テロが発生し日本人にも被害が出た。さらに近年はISも加わり、ISが画策する国内の混乱を狙ったスンニ派モスクを対象としたテロ活動も増加し、テロ対象が多様化している。ましてチュニジアのような観光者を狙ったテロ事件が発生すると、リスク回避の想定が非常に困難だ。

サウジは北をイラクに接し東部にシーア派が多数居住していることから、北と東にISによる脅威が存在し、また南は今年イエメンのシーア派系フーシ派に対しサウジ主導で空爆を実施していることから三方にリスクを抱えており、テロがますます身近になりつつあると言わざるを得ない。

このような状況において、あえて日本人を狙ってくる可能性は他国と比べてまだ高くないと思われるが、無用心な日本人は狙われやすいと考えるべきであろう。自ら危険な地域へ近づいたり、不要なアピール行為をせず、常に最新情報の収集に注力し、リスク感度を常に高めておくこと、緊張感を持ち続けておくことが必要であろう。

その中で、進出企業や従業員が常に意識している対応は以下に集約されるであろう。

①巻き込まれない

テロの標的は多様化してきており、いたるところで発生する可能性がある。中でも欧米系施設（ホテル、モール等）や宗教色の強い施設（教会、モスク等）には引き続き十分な警戒が必要であろう。生活などに非常に制限の多い当地では、ますます住環境が狭められ閉塞感は極端に強くなってきている。

②狙われない

単独行動は避ける。当然ながら、現地で反感を招くような言動は慎むべきである。

③慌てない

リスクに遭遇することを前提にした緊急時対策を立案し対策をシミュレーションしておく。

今後も中東の経済は、石油資源量ならびにその価格動向に大きく左右されると想定され、シェールガスの生産増などによりエネルギー資源の中東依存は次第に変化していくであろう。それに伴う中東自身の不安感や危機感に乗じたISの活動はますます高い脅威になってくると想定される。それがISの戦略でもある。

イラクやシリア、イエメン等と違い、ここは戦地にはなっていない。当地において今のところ幸いにして日系企業における直接的な被害も聞いていない。ただし、いつどこでどのようなかたちで遭うかもしれないリスクに常に留意しなければならない緊張感は今後も回避困難であろう。

しかしながら中東以外（日本においても）にいてもテロの脅威はゼロではない。国により可能性の度合いこそ違っても、交通事故やスリ・窃盗同様に日常的なリスクとして油断せず、常に気を引き締めて行動することが、今後望まれるであろう。

（サウジアラビア駐在員） ■